

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2015年3月号 通巻75号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

冬は暇な探検隊

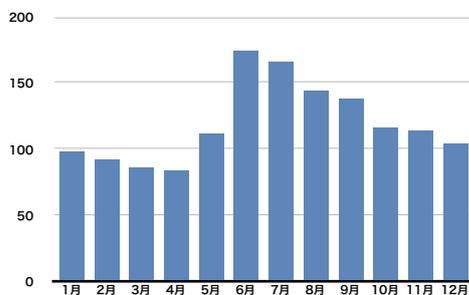
目撃情報数は夏に多い



タヌキ(東京都23区)



ハクビシン(東京都23区)



メールでの目撃情報数(全動物、全国)
いずれも2012～2014年の合計。メールでの目撃情報はデータベースに記録した日付であり、実際の目撃日とは必ずしも一致しない。

渡り鳥であるツバメは春から秋の間だけ、カモ類は秋から春の間しか見られません。セミが鳴くのは夏だけ、カブトムシも夏だけ。動物の中にはこのように季節限定のものが多くいます。もちろん、年中活動している動物も多くいます。タヌキもハクビシンも冬眠はしませんので1年中見ることができる動物です。

その原因はハクビシン

ところが不思議なことに東京タヌキ探検隊！に送られてくる目撃情報の数は季節によって変動しています。実際に集計してみると上右のグラフのようになり、夏多く冬少ないことは明らかです。ホームページへのアクセス解析をしてみても同じ傾向になります。夏になるとタヌキやハクビシンへの人々の関心が急に高まる、ということではないでしょう。夏休みの調べものでは？と思われるかもしれませんが、ピークは6月ですとの関係なさそうです。

データを詳しく見ていくと、季節の偏りの主な原因はハクビシンにあることがわかります。上中のグラフのようにハクビシンの目撃はまさに夏多く冬少なくなっているのです。タヌキにも季節変動がありますが季節差は大きくありません。ところがハクビシンは夏冬の差がはっきりしています。真冬でも目撃はされているので冬眠をしているのではありません。ですが、冬は外出を控えるなど活動量が減少しているらしいことが推測されます。これは多くのデータを集めることで初めてわかったことで、東京タヌキ探検隊！の成果のひとつです。

季節によって活動量がどう変化するのかは例えば動物にGPSロガー(記録装置)をつけて追跡すれば詳細にわかるでしょう。ですがロガーの装着・回収はなかなか難しく、実行は簡単ではありません。

東京タヌキ探検隊！の毎年の報告書の公開が1月であるのも目撃情報が少ない時期で集計作業に集中できるから、という事情がちょっとだけ

あります。東京タヌキ探検隊！は冬の方が暇なのです(アブラコウモリも冬は冬眠し、実質的には半年間だけしか観察できません。東京コウモリ探検隊！の活動も冬はほぼ冬眠してしまいます)。

ハクビシン2回目の目撃

そんな真冬の先日のこと、私自身がハクビシンを目撃しました。私にとってこれが2回目のハクビシン目撃です。昨年を目撃と同じく自宅近くの場所でしたので同じ個体だった可能性があります。冬の夜だったのですが普通にすたすたと道路を横断していきました。とても冬眠する動物には見えませんでした。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>